

<東京の目指す教育>

誰一人取り残さず、すべての子供が将来へ希望を持って、自ら伸び、育つ教育

学校の教育目標

- 元気な子 (体)
- 考える子 (知)
- 思いやる子 (徳)

<おおた教育ビジョン>

笑顔とあたたかさあふれる未来を創り出す力を育てます

目指す学校像

- 「共に生きる」→他者と協働することや助け合うことの大切さを学ぶ。
- 「自立する」→自分を知り、大切にす。自分で学びの計画を立て、責任をもつ。
- 「社会に目を向ける」→社会の一員として、地域を大切にす、すすんで地域と関わる。

個別目標1

予測困難な未来社会を創造的に生きる力の育成

- ・探究的な学びのまとめ・発表の場としての学習発表会
- ・AAR サイクルの推進による【新宿スタイル】をベースとする自己調整学習の充実(個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実)
- ・生活科・総合的な学習・おおたの未来づくりの充実
- ・市販教材に頼らない理科学習
- ・新宿探究マイタイムの実施
- ・児童主体の学校行事づくり(遠足、移動教室、運動会など)
- ・学級活動や全校ミーティングを通じた児童主体の学校生活づくり
- ・ふれあい班活動を中心とした異年齢交流(中休みの遊び・新宿ランド)
- ・対人間関係構築スキルを学ぶ時間の設定
- ・タブレット端末を活用した情報活用能力の育成
- ・情報モラル教育、新宿 SNS ルールの定期的指導(学期1回)

令和8・9年度文部科学省教育課程柔軟化サキドリ研究校
～一人一人の可能性を輝かせる柔軟な教育課程の編成～



個別目標2

世界とつながる国際都市おおたを担う人材の育成

- ・ALTと専門講師を中心とした外国語活動及び外国語の授業
- ・英語カフェの実施
- ・地域の財を活用した学習活動(生活科・社会科・総合・おおたの未来づくり)
- ・新宿 SDGs の実施(総合)

個別目標5

自分らしくいきいきと生きるための学びの支援

- ・特別支援教育の充実
- ・特別支援校内委員会の定期開催
- ・スクールカウンセラーとの連携及び5年生全員面談
- ・いじめ防止基本方針、年3回いじめアンケートやweb-QU(3年生以上)によるいじめの未然防止、早期発見、早期対応
- ・生活指導夕会を活用した児童に関する情報共有及び組織機対応の充実
- ・不登校傾向児童への個別支援

個別目標7

学校・家庭・地域の連携・協働による地域コミュニティとしての学校づくり

- ・コミュニティ・スクールの実施
- ・新宿スクールサポートを中心とした夏休みサマースクールの実施
- ・学校ホームページやtetoruを活用した保護者や地域に向けた教育活動の発信
- ・児童・保護者・町会と連携した校庭の芝生の管理
- ・学校防災活動拠点への協力

個別目標3

一人ひとりが個性と能力を発揮するための基礎となる力の育成

- ・こどもまん中の三者面談を年2回実施(夏季休業中・冬季休業前)
- ・道徳教育の推進
- ・基本的生活習慣の定着
- ・自分と他者を大切にす学習空間
- ・個別最適な学びの充実
- ・AIドリルの活用(漢字・計算)
- ・単元内自由進度学習の促進
- ・朝読書や委員会活動と連携した読書活動の推進
- ・児童が計画して取り組む家庭学習(学年×10分)
- ・算数習熟度別学習、週2回補習教室の充実
- ・漢字チャレンジ週間、算数SU週間による個別指導の充実
- ・外遊びの励行(校庭・2グラの使用)
- ・運動量を確実に確保した体育科学習
- ・大田区小学生駅伝大会に向けた校内持久走大会の実施
- ・体力向上週間の設定(長縄・短縄)
- ・年間を通じた体カテストの種目チャレンジ
- ・早寝早起き朝ごはん週間の取組
- ・絵本コラボ給食などを通じた食育指導
- ・スタートカリキュラムの実施

個別目標4

学校力・教師力の向上

- ・ブロック教科担任制の促進<中・高ブロック>
- ・学年教科担任(理科・社会)
- ・ブロック担任による交換授業
- ・低ブロック
- ・2学期から1単元以上学年教科担任<低・中・高ブロック>
- ・1学期に1回以上給食グルグル指導
- ・校内研究・研修の充実
- ・月1 新宿教師の学びタイム
- ・全教員によるOJT実施
- ・年3回の授業観察、管理職との協議
- ・学校HPの随時更新
- ・ICT活用、勤務時間管理、健康確保措置による働き方改革の推進
- ・服事故防止の組織的対応
- ・対話を通じた組織改善

個別目標6

柔軟で創造的な学習空間と安全・安心な教育環境づくり

- ・芝生の校庭と第二校庭を活用した学習活動
- ・ICT機器を効果的に活用した授業改善
- ・環境を生かした栽培活動の充実
- ・学ぶ内容に応じた教室レイアウトの工夫

令和8年度 新宿小学校経営計画

大田区立新宿小学校
校長 本田 幸彦

I はじめに

本校は、地域と連携した学校・地域の行事や芝生の管理を通じて長年培われてきた“地域の中の学校”という校風を引き継ぎ、教職員と保護者・地域が共に力を合わせ共通の理解を深めながら学校を運営していく。

整備された芝生の校庭と道路を隔てた土の広い校庭、校舎内外の樹木や花々に囲まれた自然環境、学校を応援する保護者・地域の活動など、恵まれた教育環境の中で、他者と協働し、主体的に学びに向かう子どもを育てていく。

そのために、学校の教育目標の実現に向けて教職員一人一人が自らの個性を發揮し、その英知を結集して日々協働して教育活動に取り組み、「共に生きる・自立する・社会に目を向ける」学校を創りあげていく。

II 学校経営の基本理念と考え方

「公教育の立場に立つ」「現代の社会の要請に応える」「保護者・地域の信託に応える」「こどもの実態、新宿小学校の実態に基づく」公立学校であることを前提に、学校の教育目標を達成するため、学校経営の基本理念として「教職員は最大の教育環境である」という考えの下、「明るく元気に根気よく、成長し続ける教職員集団」「進化し続ける学校」を目指し、次のような考え方で学校経営を行う。

- ・子どもたちが誇りに思える、魅力ある学校を目指す
- ・子どもたち、保護者、地域に信頼される学校をつくる
- ・地域とともに歩み進化する学校であり続ける

III 学校の教育目標

人間尊重の精神に基づき、広く国際社会において、信頼と尊重の得られる個性あふれる豊かな人間性を培い、時代の変化に主体的に対応できる生きる力あふれる児童の育成を目指し、次の教育目標を設定する。

- **元気な子** 心身ともにたくましく
- **考える子** 自ら考え、正しく判断する
- **思いやる子** 感動・共生の心を育む

IV 目指す学校像

「おおた教育ビジョン」の理念「笑顔とあたたかさあふれる未来と創り出す力の育成」やこども像、基本方針を踏まえ、学校の教育目標の具現化に向けて目指す学校像を次のとおり設定する。

- ◇ 「共に生きる」 他者と協働し、助け合うことの大切さを学ぶ
- ◇ 「自立する」 自分を知り、大切にす。自分で学びの計画を立て、責任をもつ
- ◇ 「社会に目を向ける」 社会の一員として、地域を大切にす、すすんで地域と関わる

【おおた教育ビジョン】

- ◎ 大田区の教育がめざすこども像
 - ・意欲をもって自ら学び、考え、主体的に行動することも
 - ・多様性を尊重し、自分や人を大切にすして生きることも
 - ・地域とつながり、社会の一員として貢献しようとするこども
 - ・自ら可能性を伸ばし、ともに未来を創り出すこども
- ◎ 基本方針
 - 1 持続可能な社会を創り出すグローバル人材を育成します
 - 2 誰一人取り残さず、こどもの可能性を最大限に引き出します。
 - 3 すべての区民が未来を担うこどもを育て、ともに学び続けます。

V 教育目標を達成するための取組・個別目標

1 令和8・9年度文部科学省教育課程柔軟化サキドリ研究校

(1) 目的

多様な個性や特性、背景を有する子供たちを包摂し、一人一人の可能性を輝かせる柔軟な教育課程編成促進のための「調整授業時数」を先取りする形で教育課程を編成・実施し、研究開発を行う。

(2) 内容

年間授業時数を各教科より各学年年間 40 コマ削減し、「調整授業時数」に割り当て、「裁量的な時間(ア)こどもの資質・能力の育成に資する教育活動 イ教師の組織的な研究活動」で活用する。

(3) 調整授業時数 40 コマの具体的な活用方法

(ア) こどもの資質・能力の育成に資する教育活動

○ 目的<自己調整力・主体性育成>

① 「新宿パワーアップタイム」(年間 10 コマ)

実施時期:5 月より毎月第一月曜日 1 時間目、体育館で実施

方 法:1 時間の活動内容確認、各学級による話し合い、全体共有

内 容:全校ミーティング、各学級サークルによる話し合い(めあて確認、振り返り)、委員会活動や係活動の確認、振り返りなど

○ 目的<自己調整力の育成、生活科・総合・おおたの未来づくりで身に付けた探究の仕方の活用>

② 「新宿探究マイタイム」(年間 10 コマ)

実施時期:5 月より月 1 回

方 法:5~7 月⇒ガイダンスと自分の探究課題探し

9~1 月⇒個人で探究する時間

2~3 月⇒マイ探究報告会

内 容:学校でできること、安全にできること、他者に迷惑をかけないことなら何でもオッケー。

○ 目的<コミュニケーション能力や対人間関係構築スキルの育成>

③ 「新宿フレンドリータイム」(年間 10 コマ)

実施時期:5 月より月 1 回もしくは内容によっては月 2 コマなどの変則パターン

内 容:ソーシャルスキルトレーニング、聞き方・話し方を学ぶ、話し合いの仕方を学ぶ振り返りの仕方、プレゼンの仕方など

(イ) 教師の組織的な研究活動

○ 目的<教師の質の向上・組織的な授業改善>

① 「新宿教師の学びタイム」(年間 10 コマ)

実施時期:5 月より月 1 回

内 容:一斉教材研究、校内や外部講師による研修など

2 個別目標

個別目標 1 予測困難な未来社会を創造的に生きる力の育成

(1) 課題を解決する力、新たな価値を創造するこどもを育てます

・区独自教科「おおたの未来づくり」の実施による、STEAM 教育等の教科横断的な学びの推進を図る。学校運営協議会や地域企業との連携を通じた授業づくりを行い、大人との協働を通じた地域課題に貢献する意欲を高める。

・児童が自らの内側から湧き出る「問い」を大切にし、試行錯誤を通して、主体的に学びを深める力を育成する「新宿探究マイタイム」を実施する。

(2) 主体的に考え、行動し、協働していく力の育成

・生活科、総合的な学習の時間、おおたの未来づくりなど、探究的な学びのまとめ・発表の場としての学習

発表会を実施し、自ら考え判断する力や他者との協働を通じた課題解決力を育む。

- ・高学年の委員会活動及び全校児童による異年齢交流活動「ふれあい班活動」では、児童が主体的に活動づくりを行い、児童自らがよりよい学校づくりを行っている実感が持てるようにする。そのために、指導のねらいや教師の支援方法などについて事前に教員研修を行い、組織的に特別活動の指導が行えるようにする。
- ・校内研究テーマを「自ら学びを調整しながら、資質・能力を育む児童の育成」とし、AARサイクルの推進による【**新宿スタイル**】をベースとする自己調整学習の充実（個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実）を図る。
- ・国語科・学級活動を中心とした話し合い活動の充実を図る。
- ・理科では一人一実験や市販教材に頼らない観察・実験を行い、児童が主体的に課題解決を行い、自然事象などについての理解が深められるようにする。理科指導専門員の助言による授業改善や、理科支援員による理科室整備などを通して、「楽しい理科学習」を目指す。
- ・学級や学校をよりよくするための学級活動や全校ミーティングを通じた児童主体の学校生活づくり「**新宿パワーアップタイム**」を実施する。
- ・対人間関係構築スキルを学ぶ時間「**新宿フレンドリータイム**」を設定する。

(3) 情報活用能力の育成

- ・情報活用能力全体計画を基に、発達段階に応じた ICT スキルの習得、タブレット端末の効果的活用、情報モラル教育、新宿 SNS ルールの徹底を図る。(学期1回)

個別目標 2 世界とつながる国際都市おおたを担う人材育成

(1) 英語力の向上とコミュニケーション能力の育成

- ・ALT と外国語専門講師を中心とした外国語活動及び外国語の授業を実施する。中休みには「英語カフェ」を実施し、外国語を通じたコミュニケーション能力の素地を養う。

(2) 郷土の伝統・文化の尊重と、異なる文化・価値を理解しともに生きる態度の育成

- ・生活科や社会科では地域の文化資源を活用した学習活動を実施する。

(3) 持続可能な社会を形成していく態度の育成

- ・総合的な学習の時間(スマイル)では、「新宿SDGs」を実施し、地球規模の課題を自らにかかわる問題として主体的に捉え、自分なりに解決に向けて考え、行動できるようにする。

個別目標 3 一人ひとりが個性と能力を発揮するための基礎となる力の育成

(1) 豊かな心の育成

- ・遠足や移動教室などの学校行事や学級活動を通して、よりよい人間関係を築き、自他を大切にできる気持ちや育てる。児童が日々学ぶ「学習空間」について物的環境だけでなく、自他ともに大切にできる言葉遣いを心掛けることで、一人一人が安心して自分の学びに向かうことができるようにする。
- ・学校公開日に道徳授業地区公開講座を設定し、地域・保護者ととも道徳教育について考える機会をもつ。
- ・毎週水曜に朝読書の時間を設定し、本に親しみ読書する習慣が身に付くようにする。新宿スクールサポートによる読み聞かせも行い、読書活動の充実を図る。**委員会活動と連携した読書活動を推進する。**

(2) 誰一人取り残さない、確かな学力の育成

- ・大田区学習効果測定等の分析、授業改善プランの作成及び検証を通して授業改善に生かす。
- ・夏季休業中と冬季休業前に、こども真ん中三者面談を行う。児童はキャリアパスポートなどの資料を基に自分の学びの成果や課題を教師や保護者にプレゼンする。保護者や教員は肯定的なフィードバックを通して児童の学びを支え、児童が自分の学びに責任をもって取り組む姿勢を育む。
 - ・漢字や計算の習得に向けて、毎週火曜日と木曜日は「朝学習」を設定する。AIドリルを活用し、児童が自分の習熟に応じて学習できるようにする。
- ・家庭学習は**学年×10分間**を推奨し、習慣化を図る。宿題については1週間単位で課題を提示し、児童が自分で学習ペースを決めて取り組むことで、自己調整力が身に付くようにする。

- ・算数科では、習熟度別学習を展開する。対象児童を明確にした補習教室及び2学期末と3学期末に実施する算数ステップアップ週間を通して、基礎・基本の定着を図る。
- ・大田区漢字検定に向けて、高学年対象に始業前の時間に会議室を自主学習室に開放し、取組への意識向上を図る。不合格の児童を対象に漢字チャレンジ週間を設定し、個別指導の充実を図る。これらの取組を通して、漢字に対する関心を高め、漢字の読み書きの能力を身に付けられるようにする。
- ・**AIドリルの活用(漢字・計算)により単元内自由進度学習の促進を図る。**

(3) 健やかな体の育成

- ・体育科では、運動量を確実に確保した学習活動を展開する。体力向上週間(縄跳び)及び大田区小学生駅伝大会に向けた校内持久走大会を実施し、校内全体で児童の体力向上に向けた取組を行う。
- ・水泳指導時間を10時間確保するために、6月上旬から開始する。高学年は水泳運動のまとめとして「水泳記録会」を実施し、体力向上とともに自己のめあてを達成したり、互いの頑張りを励まし合ったりする態度を育む
- ・5月、10月に行う「早寝・早起き・朝ごはん月間」の取組を通して、よりよい生活習慣の定着を図る。
- ・天然芝の校庭を活用し、休み時間には裸足での外遊びを励行する。**(芝生校庭、土の校庭の活用)**
- ・養護教諭による保健指導や保健だよりの発信、学校栄養士と教員の協働による食育指導を通して、児童が健康について関心がもてるようにする。
- ・**絵本コラボ給食などを通じた食育指導を行う。**
- ・**年間を通じた体カテストの種目へのチャレンジを励行する。**

(4) 乳幼児期から中学校までの一貫性のある教育の充実

- ・1年生の入学初期にはスタートカリキュラムを実施し、児童が幼稚園や保育園生活の経験を活かして、小学校生活に円滑に繋ぐことができるようにする。
- ・1年生と園児の交流活動や、就学時の情報連携を確実にを行うなど、保幼小の連携を深める。
- ・蒲田中学校、蒲田小学校との連携を図り、小中一貫教育の充実を図る。

個別目標 4 学校力・教師力の向上

(1) 新たな授業モデルの構築と深い学びに向けた教師の授業力の向上

- ・**4、5、6年生では理科と社会を教科担任制(一部除く)、中高学年ブロック担任による交換授業、低学年は2学期から1単元以上の学年教科担任を実施する**ことで教員の専門性向上と児童の多角的な児童理解の促進を図る。
- ・校内研究では年間6回授業研究を行い、年間講師の指導の下、教員の指導力向上を図る。研究授業を「チャレンジ授業」と位置づけ、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けた単元デザイン作りに教員自信が前向きに取り組めるようにする。
- ・児童が、自己選択、自己決定、自己調整できるような学習づくりを行う。タブレット端末を有効活用し個別最適な学びや協働的な学びを推進する。
- ・教員一人一人が年間研修テーマを決め、テーマごとの少人数グループで、研修を進める**「新宿教師の学びタイム」**を実施する。学期末には研修の進捗状況について伝え合い、年度末には1年間のまとめをプレゼンし合うことで、**全教員による校内 OJT**の強化を図る。
- ・年3回の授業観察及び管理職との振り返りを通して、教員の指導力向上を図る。
- ・区や都の研究会に積極的に参加し、教科の専門性を高めるとともに、校内での情報共有を行い、教員が互いに高め合う集団になることを目指す。

(2) 学校の組織的な運営力の向上

- ・**1学期に1回以上、給食グルグル指導を行う。**
- ・理職、主幹で構成する「企画会」では、学校運営上の課題や解決策について共有する。解決に向けた具体的な手だては分掌組織で行うようにすることで、校務分掌組織を横断的に調整することができるようにする。各分掌では、自己の職務について目標・課題・課題解決の方針を明確にし、主体的に取り組むようにする。
- ・教職員に向けて、適時に「研究・研修メッセージ(校長だより)」を発信し、目指す学校像に向けた校長の意図などを伝え、「なんのための教育活動なのか」常に意識できるようにしていく。

(3) 学校における働き方改革等による教育職の魅力の向上

- ・ICT 活用によるペーパーレス化や業務のスリム化を図り、教員が教材研究等の授業づくりに時間を活用することができるようにする。
- ・服務規律の遵守、職務への愛情・責任・創意工夫が、学校づくりにつながるという使命感をもって日々実践(体罰・性暴力、信用失墜行為の禁止、公簿・公金の管理、守秘義務等)する。
- ・教材研究に時間を掛けたい教員に対して「時短ハラスメント」にならないよう、一人一人が自分の時間を調整できるような「自律した働き方」や**適切な勤務時間管理、健康の保持増進**につながる「休暇が取りやすい環境づくり」を、学校内外の知見や協力を得て工夫し、働き方改革を進める。
- ・対話を通じた組織改善ができるように、職層に関わらず教職員一人一人が他者の人権に配慮した発言を心掛けることができるようにする。

個別目標 5 自分らしくいきいきと生きるための学びの支援

(1) 特別支援教育の充実

- ・特別支援校内委員会を定期的開催し、児童一人一人のニーズに応じた指導方法を検討できるようにする。
- ・スクールカウンセラー、巡回心理士、発達障害支援アドバイザー等による助言を指導に活かす。
- ・生活指導夕会ではサポートルームの巡回教員からの情報を基に、教員の指導方法について共通理解を図る。
- ・年1回、特別支援教育に関わる研修を実施し、教員の指導力向上を図る。

(2) いじめ対応、不登校への支援の徹底

- ・**いじめ防止基本方針**を確認し、6月、11月、2月のこどもの心サポート月間では、いじめアンケートや学級集団調査(Web-Qu・第3学年以上)を実施し、児童の不安や悩みの早期解決及びいじめの未然防止や早期発見につなげていく。
- ・スクールカウンセラーによる5年生全員面談を実施する。児童の心の悩みに寄り添い、一人一人のメンタルヘルズに配慮できるようにする。
- ・不登校傾向の児童については、児童の状況や保護者の願いも汲み取りながら、不登校対策委員会
で支援方法を検討し、組織的な対応を行う。別室登校を必要とする児童については、会議室を「校内教育支援センター」として活用する。不登校支援員とともに過ごし、児童の居場所となるようにする。必要に応じて、学びの多様な学校分教室「みらい学園」や関係諸機関と連携して、早期支援に努める。

(3) 相談・支援機能の充実

- ・毎週金曜日に実施する**生活指導夕会では、いじめや不登校案件についての現状と指導状況等について該当児童担任より状況報告を行う。全教員で共通理解を図り、組織的な指導対応を行う。**
- ・低・中・高学年ごとに副担任を配置し、多面的・多角的な児童理解につなげる。

個別目標 6 柔軟で創造的な学習空間と安全・安心な教育環境の構築

(1) 魅力ある学校施設の整備

- ・用務主事、雪印種苗と協働しながら、天然芝の校庭の維持管理に努める。
- ・校庭の花壇や第二校庭の畑を活用して、栽培活動の充実を図る。
- ・**学ぶ内容に応じた教室レイアウトの工夫を行う。**

(2) 可能性を引き出す学習環境の充実

- ・タブレット端末や電子黒板及び実物投影機等の ICT 機器を効果的に活用した授業改善を図る。

(3) 安全・安心の確保

- ・4月に食物アレルギー研修を実施し、校内での食物アレルギー事故防止の徹底を図る。
- ・毎月実施する避難訓練や年1回実施するセーフティー教室や情報モラル教室を通して、児童が自ら判断し、危険を回避する力が身に付くようにする。
- ・月1回、安全点検を実施し、安全な施設・設備の管理に努める。

個別目標 7 学校・家庭・地域の連携・協働による地域コミュニティの核として学校づくり

(1) コミュニティー・スクールの推進

- ・学校運営協議会を年5回実施する。学校・家庭・地域が一体となつて子どもたちを育み、「地域とともにある学校」を目指す。
- ・学校地域協働本部(新宿スクールサポート)を中心とした、夏休みわくわくサマースクールを実施し、ものづくりや体験的な学びの機会を設定する。
- ・学校ホームページや tetoru では学校生活の様子を随時更新したり、学級担任はまなびポケットを活用して月1回以上各クラスの様子を配信したりして、保護者や地域に向けて教育活動の様子を積極的に発信する。

(2) 地域と連携した安全・安心な環境づくり

- ・5町会と連携して、合同防災訓練を実施する。
- ・5町会と児童が一緒になって芝刈りを行い、地域と連携した学校の環境づくりを推進する。

(3) 家庭教育への支援

- ・道徳地区公開講座、体育・健康教育授業地区公開講座、情報モラル教育講座を実施し、家庭と連携しながら、児童の健全育成を図る。